

会  
報

# しせん

発行元 神奈川県平塚市寺田縄 265-1  
社会福祉法人 至泉会  
代表者 森 三郎  
編集 伊藤みのり 遠藤 由樹  
清水 行夫 千葉真紀子  
向井めぐみ 森 達夫

第1号

2014.08.01 発行

理事長挨拶

社会福祉法人至泉会

理事長 森 三郎

今年は社会福祉法人至泉会を立ち上げて三十五年になります。

その間、法人の役員はじめ神奈川県、秦野市、平塚市、伊勢原市等の行政機関、各施設のボランティアの皆さんなど、大勢の方々のご協力とご支援により、大過なく施設運営が出来ましたことを心からお礼を申し上げます。

これまで五施設でそれぞれ情報誌を発行してまいりましたが、この度法人全体の活動をご理解いただくため、年に一回は合同で発行することにいたしました。今回が第一号ということになります。名称は「しせん」としました。是非ご意見、ご感想などお聞かせ下さい。

福祉施設は、それぞれ創設時の社会的ニーズがあって開設しましたが、時の経過により地域ニーズ



の変化と医療・教育・労働等近接領域の変化により、新たな役割を担う必要が生じます。至泉会では昭和五十八年精陽学園開設と同時に短期入所事業、地域サービス事業を立ち上げ、平成十四年には、ソーレ平塚において重症心身障害児者通園事業（療育園）を全国に先駆けて開設しました。国の理解を得るのにかなり労力を使いました。

施設は利用者が充実した毎日を通らせるよう個別処遇の充実はもとより、日課の点検、生活上の創意工夫を常時重ねる事が大切と考えています。足元の充実と施設の社会的役割への関心の複眼が何より重要であると考えます。

しせん（至泉）の謂れ

「あなたは、潤った、園のように水の絶えない泉のようになる」という旧約聖書のイザヤ書の一説が源となっています。社会福祉法人「至泉会」の「至」の字には、ものごとの根源に至る、という意味があり、「泉」については、汲めども尽きない豊かな水がいつも湧き出ている園（その）をイメージしています。そこから、湧き出する泉のごとく福祉の心が絶えない法人でありたいという願いが込められています。



# 平成二十六年 新採用職員紹介

今年度新たに採用した職員は、次のおりです。新卒者、経験者と経歴は様々ですが、法人が関わるとしての利用児・者、ご家族の皆様方のニーズに出来るべくがんばっていききたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## ◇ソーレ平塚

酒井 紀江	看護師
南里 慎平	生活支援員
土屋 香	生活支援員
橘川 紀子	生活支援員
加藤 好子	生活支援員

## ◇ソーレ平塚地域支援センター

向井めぐみ	生活支援員
大西 未紗	理学療法士

## ◇あけぼの園

五十井 薫	児童指導員
北村 依世	児童指導員

## ◇すこやか園

藤原 雄三	園長
黒部なつみ	保育士
小川 哲生	支援員
林 朋子	臨床発達心理士

新採用職員十九名

(七月一日現在)



## 新職員挨拶

すこやか園

園長 藤原 雄三

みなさん、こんにちは！今年度、社会福祉法人至泉会に入職した新人職員は十九名（七月一日現在）です。

新人職員十九名の職種は、児童指導員、保育士、生活支援員、看

護師、理学療法士、臨床発達心理士、園長等多職種に亘っています。年齢も、初めて就職する二十歳代から経験を積んできた六十歳代まで幅広くなっています。また、雇用形態は常勤・準職員・パート・アルバイトとそれぞれです。新人職員一同、法人から温かく迎えていただき、それぞれの職場で年齢や経験、雇用形態の違いはあれ、緒先輩職員等の指導の下、フレッシュな気持ちを大切にしながら日々元気に頑張っております。以上、すこやか園の藤原が新人職員を代表してご報告させていただきます。

みなさん、よろしくお願いたします！

## ◇精陽学園

岩崎 風子	保育士
山本 大貴	保育士
石隈 裕哉	児童指導員
佐々木美穂	保育士
田澤 有希	介助員
久保 礼奈	保育士



すこやか園  
園長 藤原雄三



# 児童発達支援センター あけぼの園

80センチ 81号

〒259-1302

秦野市菩提 507-1 0463(75)1601

<http://www.sisenkai.com>



## 80センチの由来

こどもたちが毎日見ている風景の目線の高さが約80センチとされています。

曜日：月～金

時間：10:00～14:00

定員：30名

対象：3・4・5歳の就学前の幼児

## あけぼの園って・・・

ことばや身体の発達に遅れや心配のある子どもたちのすこやかな育ちを応援、支援する施設です。また、ご家庭に対してはお子さんの日常生活の様子や療育での様子を踏まえ、具体的な関わり、工夫などについて話し合います。

## あけぼの園の目的

食事、排泄、身じたく、着替えなど基本的な生活習慣が身に付くよう、また歩行、集団の力を通して待つこと、物を見続けること、相手に合わせること、発語能力を引き出すことを目指します。

10:45 集会



リーダー職員の動作を見る事・話を聞く事・順番を待つ事を通して、きちんと座っていられるようにします。

11:00 歩行



菩提の素晴らしい自然の中をたくさん歩きます。歩くことで相手に合わせる力など、たくさん力を身に付けていきます。

12:00 食事



よく噛み、きちんと飲み込む事を基本にしなが、何でも良く食べられるようにします。食事指導は生活全般にわたる問題行動の改善や、ことばの獲得の基礎になります。

10:30 リズム



みんなで手を繋ぎリズムに合わせて身体を動かします。集団の力を通して、相手に合わせる事や模倣する力を引き出します。

# あけぼの園 の 1日

10:00 朝の会



1日のはじまりです。身支度を済ませて、クラスみんなで朝の会。歌を歌ったり元気に気持ち良くあいさつ！

13:00 運動・学習



手先を使ったり、耳や目、身体全体を使う様々な運動や学習に取り組みます。理解する力・手をコントロールする力・持続する力が身に付きます。

14:00 お帰り



帰りの支度をしておかえりの歌とあいさつ！職員に見送られ、あけぼの園のバスに乗って帰ります。

## 主な行事

- ・保育参加
- ・夕涼み会
- ・運動会
- ・クリスマス会
- ・卒園式 等



## その他の事業

- ・日中一時支援事業  
(幼児・小学校低学年対象)
- ・障害児相談支援事業
- ・特定相談支援事業



『みんなげんき』

生活課主任 峯本 敦史

「いってきますー！」

一番は小田原まで通う高校生。

朝の七時半に玄関を出ていきます。次に飛び出していくのは、小学校に通う子ども達。ランドセルを背負って、意気揚々と出発です。その頃園内はまさしく戦場。怒涛の忙しさ。高校生がスマホ片手に車に乗り込み、中学生はお弁当を鞆に詰め込んでいます。黄色いリュックに黄色い帽子は幼稚園の二人組。準備を終えて靴を履きかえま

す。最後は養護学校に通う子ども達。約二十名が続々と玄関に集まってくる。

「○○くん、歯磨きしつけないよー！」

「靴を履き替えなさいー！」

「靴を履き替えなさいー！」

毎日が大騒ぎです。朝の九時。養護学校に向かうワゴン車を見送り、朝の業務が終わります。

夜勤者は、業務を終えた疲労感と、無事に学校に送り出せた安堵感の中で「ふう〜」と息を吐き、

荒れ果てた棟内の片付けに取り掛かって、やっと緊張感から解放されます。

朝の喧騒が嘘のように静かになった園内で、幼児さんと成人さんのデイケアが始まります。

これが精陽学園の毎朝の光景です。

必死な職員とは対照的に、子ども達は嬉しそうに学校に行きます。

\*

午後の十四時半になると、子ども達が帰ってきます。

まずは黄色いリュックの二人組。帰ってくるなり、玄関で大の字。

「靴を脱いで」の声は届きません。

その後、養護学校の約二十名。続けて小学生、中学生。充実感と満足感を鞆に詰め込み、子ども達は下校してきます。

一番遅いのは、高校で部活動をする女の子。子ども達がパジャマに着替え終える頃、学園の電話が鳴ります。「今バス停に着いたから」。

夜の二十時。近くのバス停で待付け、それが終わったら、明日のち合わせ。帰ってきて、一緒にご飯を食べ、今日一日の話をします。

食堂の片付け、子ども達の寝かし付け、それが終わったら、明日の学校の準備。学校の連絡帳を一

冊一冊書き、精陽学園の一日は終わります。

「いや、正確には終わりません。小さい子のお部屋から泣き声が聞こえてきます。」

高校生や中学生が、職員室に集まってきます。

「ちょっと話しても良い？」

\*

精陽学園は、約五十名の子ども達が生活する入所施設です。子どもを持つどの家庭でも行われる

「日常」は、もちろん精陽学園にもあります。そんな学園の様子をほんの少し、紹介させてもらいました。

\*

私は精陽学園の職員として十二年働いてきました。私が新人職員だった時に小学校一年生だった子が、今年の三月に高校を卒業しました。

泣き虫だった子が凛々しくなりました。わがままだった子が、思いつきのある人になりました。抱っこされていた子が、今では小さい子を抱っこする側になっています。

沢山の出会いと経験の中で、一人ひとりの子ども達が、幼児期・児童期を過ごし、そして巣立っていきます。憂鬱な反抗期や葛藤する

る思春期ももちろんあります。

子ども達の中に、可塑性を信じ、見守り、支援する私達がい

ます。

そして子ども達と精陽学園の周りには、支えて下さる沢山の人が

います。地域、学校、病院、児童相談所。沢山の温かいまなざしが子ども達と精陽学園に注がれています。

そして、子ども達にとって何より大きな存在は、保護者の方々。

子ども達が一番良い表情になれるのは、やっぱり家族と一緒にいる時。

十二年働いて、深く感じてい

ます。

いつも本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱい

\*

沢山の人達に支えられて、子ども達は大きくなっていきます。日常の中で色々なことを学び、経験し、大人になります。

それはこれからもずっと変わらない精陽学園の「日常」なのだと思います。

明日もきっと戦場です。子ども達はみんな、笑顔です。



## ソーレ平塚

### 『ア・モーレ』

生活支援課 笹川 裕子

ソーレ平塚のエントランスにある大きな壁画『季の香り』。まず壁画の大きさに魅了され、ソーレカラーの桜に集う優美な人々の絵に気持ち豊かになります。

この場所ではみなさんが自由に過ごせる場所として、『喫茶アモーレ』がオープンして十五年が経ちます。イタリア語で『愛』という意味の『アモーレ』。その名の通り「愛情を込めた美味しいコーヒーをみなさんに召し上がってほしい」と一杯一杯ドリップしたコーヒーを提供し、多くの方々に好評を頂いております（毎週水曜日オープン）。



ン。また「みんなと一緒にお酒を楽しみたい」という居住者の声があきつかけとなり、毎月一回夜に『ジャズバーアモーレ』としてジャズを聴きながらアルコールとおつまみで賑わっています。

そして何よりも長年楽しい憩いの場として『喫茶アモーレ』がみなさんに親しまれてきたのも、多くのボランティアさんのご協力のおかげです。心より感謝しております。

施設生活の中にも気持ちを豊かにしてくれる場を大切に、これからも喫茶アモーレでみなさんが笑顔になれるよう、最高のコーヒーで「お・も・て・な・し」をしたいと思います。お近くにお寄りの際には是非お立ち寄り下さい。お待ちしております！

## ソーレ平塚地域支援センター

### 『ガタンゴトンは大冒険』

#### 地域支援センター

#### 向井めぐみ

地域支援センターは、ケアセンター・療育園・相談の三部門で構成されています。

ケアセンターでは年に一回、日帰り外出を行なっています。利用者の希望を聞きながら、行く場所を決めています。希望は様々で「美味しい物が食べたい」、「映画を観たい」、「電車に乗りたい」、「ショッピングがしたい」、「動物、魚が見たい」等、それぞれです。その中から今回は電車での外出を紹介したいと思います。梅雨の中止み、紫陽花が沿線を彩るころ、

一路小田原を目指し、賑やかなご一行様は伊勢原駅から小田急線に乗り、まさしく「電車でごー！」を体験。道中では、風景を見たり、おしゃべりをしたりと、様々な話題で盛り上がり車内にも色とりどりの花が咲き乱れ？ました。そうこうしているうちに小田原駅に到着。駅ビルのラスカにて昼食をと

り、その後小田原城を目指し、いざ出発。城址公園内の石垣にはたくさんの紫陽花が咲き乱れ、それを見つめて皆でうっとり眼。とても綺麗で、ほっこり気分になったのは言うまでもありません。

帰りの電車内、ふと利用者が「電車のガタンゴトンって音いいね！」と、ポツリ一言。普段なかなか電車に乗る機会のない利用者だからこそ感じた素直で素朴な感想だったように思います。電車での移動が当たり前の私にとってはとても新鮮で印象に残る言葉でした。今後利用者への思い出の一つとなるような日帰り外出を計画して行きたいと思います。

外に出ること、それは未知なるワクワクと感動の世界。さあ、大冒険の旅へ。





今回は事業説明だよ！

伊勢原市公式イメージキャラクター  
クルリン

# すこやか園

神奈川県伊勢原市桜台 4-5-20

TEL:0463-93-6914 FAX:0463-94-3846

モットー『地域の人々と心が通い、地域の人々と共に成長する施設』

伊勢原市より、すこやか園の運営委託を受けて、今年で10周年！

## 地域活動支援センター

伊勢原市内にお住いの障がいをお持ちの方が通所されています。  
主に「入浴」「送迎」「創作的活動・リハビリテーション」のサービスを柱として現在21名の方が通っています。

8月の夏まつりに向けて、プラスチックトレイを使ったモザイクアートに挑戦中！  
どんなものになるのかお楽しみに☆



## 児童発達支援事業

発達の遅れや心配のある、就学前までのお子さんと保護者が一緒に登園していただく母子療育です。グループ・個別療育を行っています。  
現在、83名のお子さんが通っています。



5月の作品



6月の作品

## 生活支援センター

福祉サービスについての情報提供と利用のための調整をおこないます。  
ご本人やご家族の思いをうかがい、希望する生活に向けて、一緒に考え話し合っていきます。  
それをもとにサービス等利用計画を作成し、サービスを利用する上での方向性について関係機関と共有を図り、連携します。

## ひなたぼっこ

障がいのあるお子さんの放課後支援を行っています。  
現在15名のお子さんが在籍しています。

～ひなたぼっこの由来～  
陽だまりの温かさを楽しみ、くつろぐ“ひなたぼっこ”の名のとおり、一人ひとりがリラックスした時間を過ごすようお願いをこめました。



## 保育所等訪問事業

集団生活を送る上で支援が必要なお子さんに対して、スタッフが幼稚園や保育園等に訪問する事業です。

※現在は休止中です。

## お知らせ

毎年行われているふれあい福祉まつりは、12月6日(土)10:00～14:00に開催！  
昨年度は、話題のクルリンも登場！  
皆さんもぜひ来て下さい☆  
ホームページも秋のリニューアルに向けて奮闘中！！乞うご期待☆

(単位:円)

(単位:円)

勘定科目		決算(B)
事業活動による収支	収入	
	児童福祉事業収入	163,488,257
	障害福祉サービス等事業収入	705,026,039
	借入金利息補助金収入	1,644,500
	経常経費寄附金収入	1,070,561
	受取利息配当金収入	92,756
	その他の収入	11,591,564
	事業活動収入計(1)	882,913,677
	支出	
	人件費支出	643,477,014
事業費支出	100,007,894	
事務費支出	115,100,533	
支払利息支出	1,644,500	
その他の支出	5,471,790	
事業活動支出計(2)	865,701,731	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	17,211,946	
施設整備等による収支	収入	
	施設整備等補助金収入	13,725,000
	施設整備等寄附金収入	500,000
	施設整備等収入計(4)	14,225,000
	支出	
	設備資金借入金元金償還支出	14,800,000
固定資産取得支出	6,430,070	
固定資産除却・廃棄支出	94,000	
施設整備等支出計(5)	21,324,070	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 7,099,070	
その他の活動による収支	収入	
	積立資産取崩収入	10,435,080
	その他の活動収入計(7)	10,435,080
	支出	
積立資産支出	20,282,500	
その他の活動支出計(8)	20,282,500	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 9,847,420	
予備費支出(10)	—	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	265,456	
前期末支払資金残高(12)	220,253,293	
当期末支払資金残高(11)+(12)	220,518,749	

勘定科目		当年度決算(A)
サービス活動増減の部	収益	
	児童福祉事業収益	163,488,257
	障害福祉サービス等事業収益	705,026,039
	経常経費寄附金収益	1,070,561
	その他の収益	4,664,700
	サービス活動収益計(1)	874,249,557
	費用	
	人件費	689,040,434
	事業費	100,007,894
	事務費	115,100,533
減価償却費	43,683,592	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 35,269,737	
国庫補助金等特別積立金積立額	13,725,000	
その他の費用	0	
サービス活動費用計(2)	926,287,716	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 52,038,159	
サービス活動外増減の部	収益	
	借入金利息補助金収益	1,644,500
	受取利息配当金収益	92,756
	その他のサービス活動外収益	6,926,864
	サービス活動外収益計(4)	8,664,120
	費用	
支払利息	1,644,500	
その他のサービス活動外費用	5,471,790	
サービス活動外費用計(5)	7,116,290	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,547,830	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 50,490,329	
特別増減の部	収益	
	施設整備等補助金収益	13,725,000
	施設整備等寄附金収益	500,000
	その他の特別収益	146,367,410
	特別収益計(8)	160,592,410
費用		
基本金組入額	500,000	
固定資産売却損・処分損	1,321,069	
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 15,655	
国庫補助金等特別積立金積立額	0	
その他の特別損失	292,862,043	
特別費用計(9)	294,667,457	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 134,075,047	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 184,565,376	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	478,206,646
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	293,641,270
	基本金取崩額(14)	
	その他の積立金取崩額(15)	
	その他の積立金積立額(16)	11,900,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	281,741,270	

貸借対照表  
平成26年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
流動資産	267,889,160	流動負債	109,786,411
現金預金	147,755,458	事業未払金	22,141,463
事業未収金	104,889,059	1年以内返済予定設備資金借入金	14,800,000
未収金	105,438	未払費用	25,182,991
未収補助金	8,765,410	預り金	43,757
立替金	5,682,049	職員預り金	2,200
前払金	507,339	賞与引当金	47,616,000
前払費用	106,000		
仮払金	31,907		
その他の流動資産	46,500		
固定資産	1,254,675,875	固定負債	106,598,500
基本財産	773,567,718	設備資金借入金	46,400,000
土地	52,510,368	退職給付引当金	60,198,500
建物	721,057,350	負債の部合計	216,384,911
その他の固定資産	481,108,157	純資産の部	
土地	3,000,000	基本金	54,326,550
建物	3,296,604	第1号基本金	21,593,550
建物附属設備	207,790	第2号基本金	32,733,000
構築物	5,245,976	国庫補助金等特別積立金	596,201,304
機械及び装置	182,043	その他の積立金	373,911,000
車輛運搬具	7,109,457	人件費積立金(措置)	13,000,000
器具及び備品	25,256,042	施設・設備整備積立金(措置)	88,711,000
権利	2,037,746	人件費積立金	56,400,000
ソフトウェア	558,459	施設・設備整備積立金A	151,800,000
退職給付引当資産	60,198,500	施設・設備整備積立金B	28,000,000
人件費積立資産(措置)	13,000,000	移行時特別積立金	36,000,000
施設・設備整備積立資産(措置)	88,711,000	次期繰越活動増減差額	281,741,270
人件費積立資産	56,400,000	(うち当期活動増減差額)	△ 184,565,376
施設・設備整備積立資産A	151,800,000		
施設・設備整備積立資産B	28,000,000		
移行時特別積立資産	36,000,000		
リサイクル預託金	104,540		
資産の部合計	1,522,565,035	純資産の部合計	1,306,180,124
		負債及び純資産の部合計	1,522,565,035

運営面については、通所施設

(あけぼの園、すこやか園、ソーレ平塚地域支援センター)は、出席(通所)率をいかに上げるか、また入所施設(精陽学園とソーレ平塚)は入所定員の確保をいかにしていくのかということを目指して運営してきましたが、各施設とも厳しい状況にありました。中でも精陽学園は、定員がなかなか埋まらずいかに定員を満床にするかが課題となっています。

近年、職員採用においては、退職した職員の補充が難しい状況が続き、新年度になってからも欠員(保育士、児童指導員、生活支援員、看護師、理学療法士)の補充

ができない状態がすこやか園以外の施設で続きました。ただ、保育士、児童指導員、生活支援員の補充は、様々な広告媒体を活用し、年度途中で何とか補充できましたが看護師と理学療法士については、年度内で補充ができませんでした。

計画相談支援の実施状況について

では、ソーレ平塚生活支援センタ

ーとすこやか園においては、常勤職員または補助員(兼務)を増員して配置したため、前年度もしくは当初の見込みより多くなっております。職員を増員した効果が出ています(なお、すこやか園は、平成二十六年年度まで指定管理制度による運営委託を受けていましたが、十二月に再度平成二十七年年度から五年間の運営委託が決まり、長期的な事業展開を考えられるようになりませんでした)。あけぼの園においては、相談員が療育と兼務しているため伊勢原市のケースのみ実施するにとどまりました。

当法人では、法人の基本理念を念頭に利用児者の安心と安全を守り、療育や支援等の各種サービスを提供することを目標としてきましたが、七月にソーレ平塚において、食事中に入居者が食べ物を誤嚥し、約三カ月後にお亡くなりになるという事故がありました。そこで、再発防止に向けて、食形態

の見直し、アルバイトを導入し見守り体制を強化、食事時間中の職員の動きの見直し、誤嚥時に対応するための物品の購入を図りました。

会計処理については、今年度より新会計基準を導入しました。八木時雄税理士事務所の会計指導を受け対応していますが、会計処理上の変更点の実態に即していないことや移行により会計ソフトが変更になったため、事務員の仕事が煩雑になり苦慮していますが、

今、社会福祉法人のあり方について様々な意見があり、経営の透明性を保つために努力していきたいと思っています。今後とも当法人は、利用児者への療育及び支援について一人ひとりに向き合い、地域のニーズも積極的に受け止め、当法人を利用される利用児者、ご家族が幸せになれるよう心がけていきたいと思いを。

当法人は、あけぼの園・精陽学園・ソーレ平塚・すこやか園と五つの施設があり、これまでは、施設ごとに機関紙を発行していましたが、近年、社会福祉法人の運営についてもっと社会に開かれたものにしなければならぬという考えが広く提唱されるようになってきました。そこで、いささか大げさではありますがそのひとつの方法として、今回、初めて法人の機関紙を発行しました。

当法人は、あけぼの園・精陽学園・ソーレ平塚・すこやか園と五つの施設があり、これまでは、施設ごとに機関紙を発行していましたが、近年、社会福祉法人の運営についてもっと社会に開かれたものにしなければならぬという考えが広く提唱されるようになってきました。そこで、いささか大げさではありますがそのひとつの方法として、今回、初めて法人の機関紙を発行しました。

今号は、第一号ということで各施設の紹介をメインにして、他に新採用職員の紹介と昨年度の事業報告と決算報告を掲載しました。何分にも初めての試みであり、読みづらいところも多々あったかと思いますが、法人の概要が少しでも伝われば幸いです。

当紙は今後年一回、発行する予定です。また、各施設の機関紙もこれまでどおり発行していきますので、併せてお読みいただき、当法人ならびに各施設の現状等をご理解いただければと思っております。